

# SY-C1

C-HR専用  
エアコンドリンクホルダー 運転席用

## C-HR

**!** ご使用前にすべての説明文をよくお読みください。また、いつでも見ることができるよう保管してください。

### 特長

- C-HR(ZYX10/NGX50(2017年4月現在))の右ハンドル車の運転席側エアコン送風口パネルに取り付けできるドリンクホルダーです。
  - エアコンの送風により、ドリンクを保冷・保温する効果があります。
  - 専用設計で、エアコン送風口パネルにピッタリフィットします。
  - ツメを引っ掛けながら、両面テープで貼るだけの簡単装着です。エアコンフィンへの可動を妨げません。
  - ドリンクのガタつきを抑える底面クッション付きです。
  - 細缶・350ml缶・500ml/600mlペットボトル・コンビニコーヒー等を収納できます。
- ※表面にエンボスや発泡などの断熱加工がされたコンビニコーヒー等のカップを収納すると取り出しにくくなる場合があります。

### 運転席側用



### 購入前にご確認ください。

・本製品はC-HR(ZYX10/NGX50(2017年4月現在))の右ハンドル車専用です。※調査日以降のマイナーチェンジ車には適合しない場合があります。  
・エアコン送風口周りに追加オプションが装着されている車両へは取り付けできません。

**!** **注意** この注意文を必ずお読みになり、ご了承の上お買い求めください。

●本製品寸法は側面に表記されています。●経年変化によりエアコン送風口パネルに劣化が見受けられる場合、取り付けはおやめください。●**取付部分が多少変色したり、取付跡が残ったりする場合や日焼けによる周囲との色の差が出る場合があります。**●本製品使用時・脱着の際、内装にすり傷や塗装面を損なう場合があります。●重量が600gを超える収納物を収納しないでください。●本製品の使用・取り付けや、分解・改造・加工等によって生じた事故や、車両および本製品の破損・故障・損害について、当社は一切の責任を負いかねます。

### 取付方法

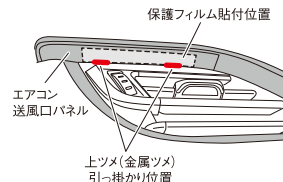
※本製品の取り付け・取りはずし・操作は、必ず安全な場所に停車して行なってください。  
※取付作業は常温下で行なってください。炎天下や極端な低温時には行なわないでください。

**1** エアコン送風口パネル周りの汚れ・ゴミ・油・保護剤等を市販のクリーナー等できれいに拭き取ります。(脱脂作業)

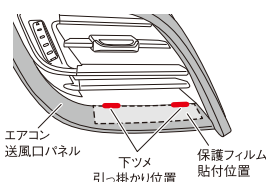
**2** エアコン送風口パネルに傷が付くのを防ぐため図1の保護フィルム貼付位置に付属の保護フィルム(2箇所)を貼ります。保護フィルムをセパレーターからはがし(図2)、エアコン送風口パネルの境に合わせて一度でしっかりと貼り付けます。

**!** エアコン送風口パネルに傷が付くのを防止するため、必ず保護フィルムを貼ってください。  
注意

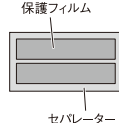
(図1) エアコン送風口を下から見た図



エアコン送風口を上から見た図

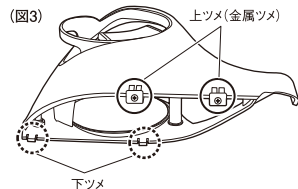


(図2)



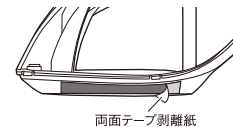
**3** エアコン送風口パネルに本体をあてがい、取付場所と上ツメ(金属ツメ)と下ツメが引っ掛かる位置を確認します(図1)。その際、上ツメ(金属ツメ)と下ツメをエアコン送風口パネルに引っ掛けないように注意してください。

(図3)



**4** 本体裏側にある両面テープ剥離紙をはがします。(図4)

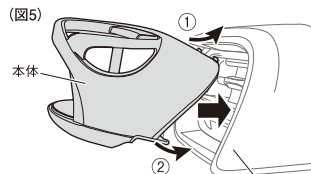
(図4) (本体裏側)



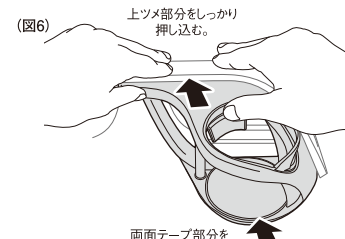
**5** **3** で確認した取付場所に、本体を少し傾けながら奥まで押し込むようにして上ツメ(金属ツメ)を引っ掛けます(図5-①)。本体の下側を押さえて下ツメを引っ掛けます(図5-②)。本体裏側の両面テープをエアコン送風口パネルに押し付けて、一度でしっかりと貼り付けます。図6のように再度押さえてしっかり取り付いているか確認してください。

**!** 取り付けの際、本製品に無理な力を加えたり、歪めたりしないでください。  
取付面の汚れ・ゴミ・油・保護剤等をきれいに拭き取ってから貼り付けてください。  
注意

- 保護フィルム・両面テープの粘着面に手を触れたり、ホコリ等を付けたらしないよう注意してください。
- 保護フィルム・両面テープの貼り直しはおやめください。
- 保護フィルム・両面テープの粘着力は貼り付け後、約24時間で安定します。それまでは本製品に強い力を加えたり、使用しないでください。
- 本製品を取りはずした後、粘着剤が残ってしまった場合は、市販のノリはがし剤を使用してください。
- 取付部分が多少変色したり、取付跡が残る場合があります。



(図5) ① 本体を奥まで押し込み、上ツメを引っ掛けた状態で下ツメを引っ掛ける。



(図6) 上ツメ部分をしっかりと押し込む。  
両面テープ部分をしっかりと押さえる。